

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第75号

平成30年9月11日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

8/23 電通大「まさつらカルタ」集中講義でプレゼン！ 「絵札」「字札」「箱」「しおり」の試作発表

正行の会、市職員ら16名参加

8月23日(木)、大阪電気通信大学で「まさつらカルタ」の試作発表プレゼンが行われました。

この日、制作を依頼した四條畷楠正行の会から扇谷等8名の会員、四條畷市及び四條畷市教育委員会から山本市民生活部長、鈴木産業振興課長、中西魅力創造室課長、神本教育委員会生涯学習課長等8名の職員が出席し、木子香准教授の下、正行カルタの制作に取り組む21人の学生から、それぞれグループに分かれて担当する試作の発表が行われました。(写真：下左は木子准教授。他はすべて各班学生)

くすのき小・総合センターでカルタ大会

最初の発表は、企画運営班です。

同班からは、これまでの取り組みの経過と、今後のスケジュールが説明されました。発表されたスケジュールは以下の通りです。

- ・10月03日 完成品の四條畷楠正行の会による最終確認
- ・10月10日 大阪電気通信大学学内でのカルタ大会
- ・10月26日 くすのき小学校でのカルタ大会
- ・12月05日 総合センターで原画展開催(9日まで)
- ・12月08日 総合センターでカルタ大会
- ・01月16日 社会プロジェクト実習全体報告会発表

なお、企画運営班は、カルタ大会や原画展等の実施要項をまとめる作業、並びにこれらイベントを周知するポスターやチラシ制作等を行います。

そして、発表の最後に、絵札と字札の試作品、それぞれ10枚ほどが教室内で配られると、教室内から「おおー！」「素晴らしい！」などと歓声が上がりました。

字札の裏に「逆菊水家紋」

字札班からは、数枚の試作品を基に、字札のデザインや文字のフォント・大きさ、配置、ルビの打ち方等の説明と、字札の裏面のデザインに楠氏をイメージできる「逆菊水家紋」を採用し、色の違う2つの案が示されました。

正行の会のメンバーから、「裏面の逆菊水家紋の背景に使われている地紋の年代は江戸期のものではないかと。南北朝期との整合がとれるように検証して欲しい。」「文字の大きさはこれでよいのではないかと。」「全体の文字のバランス、特に、左右のバランスをもう少し検討してほしい。」などの意見が出され、班で検討することとなりました。



45枚の絵札に大きな拍手

次は、絵札班の発表です。

全員が最も注目していた絵札でしたので、45枚の絵札(案)をプリントした資料が配布されると、多くの人から意見が出されました。

「朱舜水作、楠正行像賛148文字については、その一部でよいので、実際の賛文を書いてほしい。」

「教文は略称で、正式には四條畷市立教育文化センターなので、その点配慮がほしい。」

「高山右近が手にするクルス像に、四條畷市南野の土蔵から出土したクルス像を連想できるものにして欲しい。」

「正行の辞世の文章が、蛇腹折りの為右肩下がりのような文字になっているが、背景が縦の線で重複して分かりにくいので、蓮のデザインに変えてはどうか。」



「金剛山で辰砂がとれる図柄については、千早赤阪村の特徴である山・川・寺等を配置してはどうか。」

「四條畷神社の鳥居は、神社の階段下の鳥居か、それとも東高野街道近くの鳥居か分からない。神社階段下の鳥居であれば、道ではなく、階段に書き換える方がよいのではないか。その場合、常夜燈はいらない。」

「正行が官途に就いたことを示す図柄については、より、官位を授かったと分かるように官位を示す帽子を書き直した方がよいのではないか。」

「宝篋院に二つの墓が並ぶとして、楠正行の墓と正成の墓が描かれているが、これは正行と足利義詮の墓で、あきらかに間違っている。」

矢継ぎ早の質問に、絵札班はメモを取るのに必死でしたが、今後、しっかりと検証の上、修正を加えることとし、宝篋院の二つの墓や正行像賛賛文、南野のクルス像等のデータを扇谷から提供することとしました。

しかし、参加した会のメンバー等は、45枚の絵札が試作品として完成していることに驚きを隠せませんでした。まだまだ課題は残りましたが、多くの絵札が素晴らしい出来上がりで、久子の方の正行への訓戒の場面や如意輪堂に納めた過去帳の絵札、四條畷の戦いに出陣する正行の場面などは完成度が高く、デザインもしっかりしていて、大きな拍手が送られました。

字札・解説文にもルビを打つ

しおり班からは、A5版60頁の予定の葉の全体構成と絵札・字札とその解説文のイメージが示されました。

市職員から、「字札にはルビが付いているが、解説文にもルビを



つけるのかどうか。」との質問には、「小学生にも分かるように、解説文にもルビは入れます。」と答えました。

また、「くすのきまさつらカルタ ゆかりの地図」のラフスケッチ(案)が示され、A3の大きさに手書きでトレースした、神戸湊川(西)、京都比叡山(北)、奈良吉野山(東)、橋本隅田(南)の範囲の地図が描かれ、カルタに合わせて正行ゆかりの地をその地図に落とし込もうというものです。

会のメンバーからは、「川は描かれているので、正行が使ったと思われる街道も入れてはどうか。」「渡辺橋は未記入だが、是非入れてほしい。」などと意見が出され、班のメンバーからは「この地図については未完成で、まだ必要なデータをすべて書き入れていません。もちろん、渡辺橋も記入します。」と説明がありました。

箱のデザインに楠木の花

箱班からは、画用紙とボール紙を使った手作りの箱の設計図と制作手順の説明を受けた後、試作品が示されました。

箱の表面には、正行カルタの文字と、楠木の花の絵柄がデザインされています。また、箱の横の面四方には楠木の花のつぼみがデザインされています。

会のメンバーからは、「これは何の花でしょうか。」とか



「楠木の花がこんな花だったとは知らなかった。」「これはシンプルで、楠正行を連想させる素晴らしい図柄の採用。」などと、学生アイデア・センスに称賛の声が飛びました。

カルタの名称の最終確認、そしてその文字の配列や大きさについて、今一度、検討を加えて完成させることとなりました。

まさつらカルタ通信第2号発行

最後の登場は記録班です。

記録班からは、これまで、このプロジェクトの取り組みの様子をブログにアップしたことや、「大阪電気通信大学まさつらカルタ通信」を発行し、教育文化センターのホームページにアップしてきた経過等の説明がありました。

そして、この日発行予定の同通信第2号のゲラが配布されました。



史実との過誤に最大の注意を!

この日の集中講義では、前半で各班からのプレゼンを聞き、会のメンバーや市職員から数々の意見を出していただき、最後に扇谷からまとめの講評をしました。

扇谷は、絵札・字札・葉について、史実との過誤がないように最大の注意を払ってほしいとお願いしました。

しかし、最終的には正行の会が責任を持って監修するので、訂正や修正等お願いすることになるが、心配せず安心して最後の仕上げをよろしく、ともお願いしました。

そして、同大学の学生食堂に移動し、昼食会を開き、参加者一同が集い、懇談し、カルタ談議に花を咲かせて、この日の集中講義・プレゼンは終わりました。(写真:上・講評する扇谷 下・聞き入る学生等)

(文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭)

